家庭にあって 親は子の教師

学校生活のなかで、子どもたちはいろいろな態度を示します。活発な子・内気な子、ねばり強い子・あきらめやすい子、まわりの環境に早く溶け込める子とそうでない子など様々です。「十人十色」とはこのようなことをいうのでしょう。

そもそも『教育』とは、生きる力を身につけさせることにあります。生きる力とは、社会生活に必要な能力であり、それを培うことがとりもなおさず『教育』であり、それが人格の形成につながると思います。

学力も偏差値も、人格の一部かもしれませんが、それだけではないはずです。

健康、体力、あいさつ、言葉づかい、協調性など、どれも人格の一つでしょう。子どもの人格形成は、あらゆる機会でつくられます。そのなかで大きなウエイトを占めるのが、①家庭教育②学校教育③社会教育で3つの柱といえます。

家庭教育というと堅苦しく、難しいものだ―と考えがちですが、単純にいえば【しつけ】、つまり社会生活に最も必要な基本的生活習慣を身につけさせることです。

たとえば、あいさつ、返事、言葉づかい、礼儀、協調性、責任感、思いやりなど――。親がふだんの生活のなかで子どもに習得させることが、とりもなおさず【しつけ】であり、家庭教育のあるべき姿なのです。

いま、社会の複雑化、価値観の多様化によって、ともすれば【しつけ】がなおざりにされ、家庭教育が低下してきた、といわれています。【しつけ】は家庭でできる極めて大切な教育分野なのです。

「子は親の背を見て育つ」といわれる言葉があるように、親は家庭にあって子どもの教師なのです。

とかく、中学生ぐらいになると、話せばわかるはず、と思いがちになりますが、この「はず」がくせものです。

「百聞は一見に如ず」、百万遍の小言や説教より親が自ら実践することが非常に大切なのです。

つまり、親がまずやってみせる、子どもと一緒にやる、子どもにやらせるみる、など、ふだん考えもつかなかったところに【しつけ】があり、家庭教育の原点があるように思います。

社会教育指導員　宇野克彰

母と子の教室ご案内

マザーズクラス

5月13日(木)・20日(木)

対象者……町内在住の妊婦

すくすく教室

5月27日(木)

対象者……町内在住の母と子

会場は、どちらも文化会館です

文芸

俳句

気に染まぬ風に柳の身をまかす　鈴木　草庵

皮剥げば走る匂ひや山の独活　行方はじめ

青柳鮒の穴場に糸垂らす　山口　一秋

校庭は二分咲きざくら始業式　藤代　ゆう

落石の側へに生えし蕨かな　鈴木　南知

沈丁花先祖の墓より香りくる　海保　きみ

ジャガ植える今年の農の手始めに　若梅あやめ

陽炎やペンション建ちし柳の芽　戸村　静華

憂きこともやり過ごし居て春炬燵　玉虫たけし

春雷に話の腰を折られけり　勝又　和徳

それぞれの国の翼や花の雲　選者　土屋　栗水

短歌

名も知らぬ樹の実ひとつを大切に
ハワイに遊びし名残と持てり　吉岡　信子

紅に頬かがやかせ吾子が来る卒業
式場のアーチをくぐり　八角　三枝